

編集長：塩澤涼子  
編集委員：石井宏典 蛸灰谷愛 平岡惟 増田圭輔 矢原有理

## デザ研社会科見学部始動！！

都市デザイン研究室社会科見学部が発足しました。活動の目的は、まちあるきでは見ることのできない施設単体から都市活動をもう一度見つめなおすこと。先日行われた第1回第2回の見学のもようをお伝えします。

### 第1回 コカコーラ工場

D1 江口久美

2007年5月29日、都市デザイン研究室社会科見学部の記念すべき第1回見学会が行われた。場所は、東久留米市に位置するコカ・コーラ多摩工場である。工場では、まず、一番おいしい4度に冷やされたできたての瓶入りコカ・コーラを試飲しながら、工場の説明と、質疑が行われた。その後、実際の工場ラインを見学した。絶え間なく飲料がボトル詰めされていく巨大な製造ラインは、東京の消費量の大きさを物語っていた。

都市の住民を支える一つの要素を、生々しく肌で感じる事が出来た。



### 第2回 首都圏外郭放水路

text\_kakibaya

社会科見学第2回は7月4日、地下パルテノン神殿との呼び声も高い首都圏外郭放水路へ。5つの巨大立抗が河川の洪水を取り込み、全長6.3kmの地下トンネルを通して江戸川に流すシステムはまさに世界最大級。排水ポンプは小学校のプールの水を1秒で空にする威力を持つそうです。直近では6月の豪雨の際に稼働し、地域の安全を支えました。システム制御のための操作室や調圧水槽はしばしばロケ地として使用されることも多らしく、神殿内で車のCM撮影を行ったこともあるのだとか。

巨大スケールと幻想的な地底神殿に圧倒され、カメラを動かしては目に焼き付け、携帯で撮影しては目に焼き付け…非日常的な景色を堪能した一行でありました。



## 靱一シンポジウム開催・裁判開始

M1 北村修一

D1 江口久美

7月1日、三田の建築会館にて、国際シンポジウム「朝鮮通信使の道を日韓共同の世界遺産へ」が開催され、慶応大学教授の三宅理一氏、東洋文化研究家のアレックス・カー氏らが講演やパネルディスカッションを行い、朝鮮通信使の歴史から日本の景観まで幅広く議論を交わした。カー氏は最近の斜面を大きく削った土木構造物や、環境に優しいと称して芝を貼っただけの斜面を痛烈に批判し、景観に対する日本人の意識の欠如を実感させられた。

他にも朝鮮通信使巡りを行った事例や観光ネットワークの事例となるスペイン巡礼地についてなどが紹介され、世界遺産を目指す靱一にとっても興味深い内容となった。

埋め立て架橋問題をめぐり、反対派住民が県を相手取って埋立免許差し止めを求めている裁判の第1回公判が、7月2日広島地裁で開かれた。大井原告団長と弁護団からの意見陳述に対し、県は全面的に争う姿勢を見せた。現在、この埋立免許は縦覧中であり、これに対し、靱一の住民の会HPから意見書を提出することが出来る。

<http://npo-tomo.jp/jyumin/iken.html>

第2回公判は9月6日に開催予定である。今後も裁判の行方から目が離せない。





## 柏スタジオ最終講評会

text\_yahara

4月から約3ヶ月間にわたって繰り広げられてきた都市デザインスタジオ(柏の葉)が6月30日の全体講評会をもって終了した。各班は連日泊り込みで作業。前日の発表会でのアドバイスを受け、発表直前まで準備する姿が見られた。講評会には松永先生、團先生他、地権者、住民、スタジオを取っていない学生等多様な顔ぶれがUDCKに押しかけ、柏の葉の6エリアに対する公共空間の、個性溢れる提案に聞き入っていた。

どの班も迫力ある模型を交えながらの発表。厳しい批評も多かったものの、班によっては実際に関係主体へ提案したら良いという評価もあり、スタジオ参加者それぞれが手ごたえを感じていた。



講評会の後、UDCKのデッキにて懇親会が開かれ、3ヶ月の苦労や思い出を振り返った。

また、この日は北沢先生のサプライズ誕生日祝いを企画。6月生まれの千葉大宮脇先生(デザ研OB)、M1ナツポンも同時にスタジオ参加者全員に祝われ、おめでたい夜となった。

さらに、北沢研学生らから北沢先生へ誕生日プレゼントの贈呈。横浜、本郷、柏と移動が多い北沢先生へ、プレゼントは折りたたみ傘。ちょうど予期したように雨が降り出し、早速かさを取り出して歩いて見せた北沢先生の姿に会場はいっそう盛り上がった。こうして熱のさめやらぬままスタジオは幕を閉じた。



左から、M1ナツポン、北沢先生、千葉大宮脇先生



なお、成果は前年同様パンフレットにまとめるとともに、今月末の柏工業祭にも出展予定。詳しくはスタジオ2007ブログ<http://udstudio07.exblog.jp/>参照。

## 生活景wsキックオフ

M1 山田 渚

7月某日、三田にある建築会館にて、建築学会都市計画委員会都市景観小委員会の主催する生活景ワークショップのキックオフミーティングが行われました。今年のテーマは「生活景の守り方、育み方」。東大をはじめ、早稲田大、芝浦工大、法政大、千葉大、日大、工学院大の院生、学部生、総勢22名がグループに分かれ、それぞれの切り口で提案を競います。東大からはデザ研M1の山田と亀長が参加しています。

早稲田大学後藤春彦先生からのご挨拶と参加者の自己紹介の後、早稲田大・東大・工学院大による新宿区の景観計画についての状況報告があり、我らが中島・野原両助教からも、榎や落合など6地区の景観特性について熱いレクチャーが成されました。学生による作業グループ分けを経て、会場を近くの飲み屋に移し先生方も一緒に顔合わせを兼ねたコンパを行いました。お酒の力もあり一同はすぐに打ち解け、早くも「生活景」とはなんなのか、どんな提案の可能性があるのかなどの議論が白熱する場面もあり、今後の展開が期待されます。

7月27日9:30~早稲田大学にて中間発表会が、8月3日14:00~芝浦工業大学にて最終発表会が行われる予定です。

## リーブス先生ゼミ

—英語でプレゼン!—

D1 楊 恵巨

今学期、リーブス先生による英語のプレゼンゼミ(合計4回のみ)が開かれている。ゼミの主旨は英語を使ってプレゼンをしようということ。国際シンポジウムでよく見る文字だらけのpower pointや、いくつもの小さい写真を一つのスライドの中に配置したものなどはあまり効果がない。このような状況を改善しようと考え、今回のゼミを用意してくださったのである。ゼミでは毎回参加者たちが1人ずつ発表して、発表の内容ではなく技術面について議論した。



私は台北市のまちの紹介を発表した。自分が今回のプレゼンから得たものは、イメージにストーリーをつけること、また、もっとゆっくり話したほうが観客にとって良いとのことである。この場を利用して徐々に英語の練習もできた。

プレゼンの資料(言語を問わず)を作るときはもっと観客の立場から、考えたほうがいい。これは、リーブス先生が教えてくれた重要なことである。今回、いろいろな人の意見を頂いて、また他の人のプレゼンも見て、いい所も多く学んだ。これからのプレゼンにとって、とても良い勉強になった。

## 2007年度研究室会議 第7回第8回

text\_hiraoka

第7回、第8回研究室会議がそれぞれ7月3日、5日に行われた。いつもの会議室ではなく学部の講義に使われる教室が会場で、普段とは少し違う雰囲気なのかな、M1、M2が発表を行った。

□7月3日研究室会議

- M1北村修一「連続立体交差事業の是非を、都市構造を読み解くことで問う」
- M1亀長尚尋「日本の景観の固有性に関する評論に関する研究」
- M1鎌形敬人「まちに開かれた小学校について」「減らしながら都市再生すること」
- M1蛭灰谷愛「駅前空間のあり方と可能性に関する研究」
- M2塩沢諒子「近代以降の広場の計画思想と空間認識に関する研究」
- M2石井宏典「小豆島・醬の郷のまちづくりの研究」

□7月5日研究室会議

- M2ファブリ・ピンズビ「Place making within the contest of waterfront development : A case study of ODAIBA waterfront city, Tokyo」
- M1鈴木惇也「海面上昇を契機とした水上都市の形成」
- M2横田俊介「都市の夜間景観形成の系譜(歴史とツール)に関する研究」
- M2ポンサン・ウェティエンプラッド「日本における屋台の系譜とまちづくりへの展開に関する研究(仮)」
- M1大道亮「団地建て替え時の空間構成に関する研究」
- M1バンノイ・ナツポン「寂れた商店街・中心市街地の再生 / 大学と都市」

編集後記

text\_hiraoka

初編集で実感したことは、見やすく読みやすくするためのレイアウトと、一言でわかりやすくおもしろくみせるための見出しの、難しさと重要さ。そしてこの編集後記。なにを書いてもいいからこそ試されている気がするのはいつかの世のためでしょうか。そのうちなにかの利いた言葉をさらっと書けるようになりますように。